

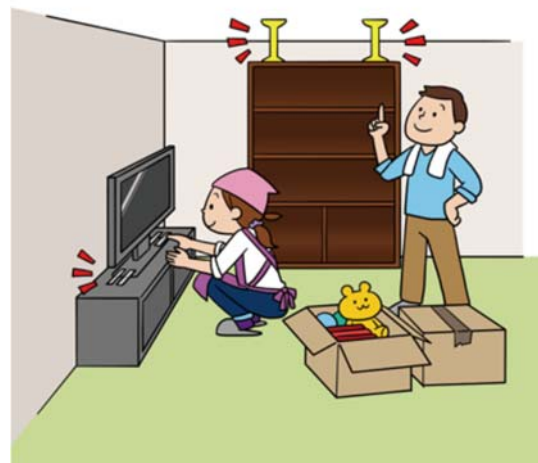
大掃除をきっかけに、家具転対策をしよう！

年末、大掃除の季節です。今年の汚れをはらって、新しい年を迎えるための大掃除。普段は動かさない家具を動かす良い機会です。この機会にぜひ「家具転対策（かぐてんたいさく）」をしてみましょう！

家具転対策とは、地震の揺れでケガ等をしないために、家具や家電などを固定したり、落下防止をしたりする、「家具類の転倒・落下・移動防止対策」の略称です。

地震による家具転倒の発生は、過去の地震災害を見るとケガや避難障害、火災など様々な危険につながる可能性がとても高いです。

地震から大切な命を守るために、家具転対策を実施しましょう。



大阪府北部地震、北海道胆振東部地震が発生！

家具類の転倒・落下・移動による死傷者が発生しています！

今年6月には最大震度6弱を観測した「大阪府北部地震」が、9月には、最大震度7を観測した「北海道胆振東部地震」が発生しました。

これらの地震では、倒れた家具などによって多くの死傷者が発生しています。

東京消防庁の調査では、近年発生した地震の負傷原因のうち、家具類の転倒・落下・移動によるものは、全体の約30～50%を占めています。

地震時にケガをしないため、大切な家族を守るため、

家具転対策を実施しましょう！



北海道胆振東部地震の室内被害（安平町 震度6強）

各地震における家具類の転倒等による主な被害

【北海道胆振東部地震】

- 50代男性 大量の本の下敷きになり死亡（札幌市：震度5強）
- 86歳男性 タンスの下敷きで死亡（むかわ町：震度6強） など

【大阪府北部地震】

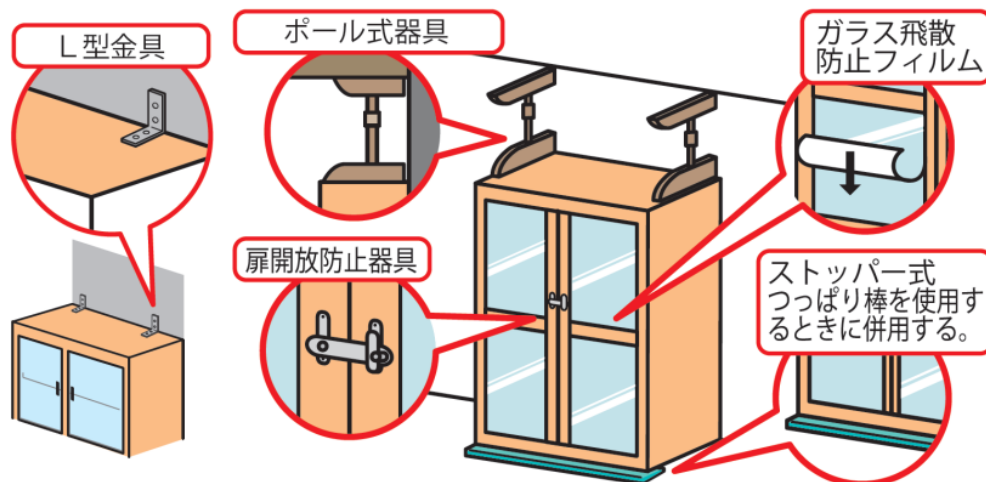
- 85歳男性 自宅で本棚に挟まれ死亡（茨木市：震度6弱）
- 38歳男性 自宅の棚が転倒したことにより負傷（尼崎市：5弱）
- 27歳女性 自宅で落下物により後頭部挫創（西宮市：5弱） など



どうやって家具転倒対策をしたらいいの？

一言で家具転倒対策といっても、その方法は様々です。

L型金具などを使用し、家具と壁をネジ留めする方法が、最も効果の高い方法ですが、壁に穴を空けられないご家庭などには、ネジ留めが不要な対策器具を組み合わせる固定する方法もあります。例えば、本棚などの場合は、ポール式とストッパー式（もしくはマット式）を組み合わせることでL型金具と同等の効果が得られます。



このほかにも、大きなホームセンターなどには、穴を開けたりすることなく設置し、固定できる器具も多く販売されています。対策を行う家具の形状や重さに合った器具を選び、器具の効果が十分に発揮できるよう、正しく設置することが重要です。



家具転対策についてもっと知りたい

詳しい実施方法を知りたい方は、東京消防庁ホームページにある家具転対策ページをご覧ください。

対策方法を詳しく解説した「家具類の転倒・落下・移動防止対策ハンドブック」や、家具転対策ドラマや対策方法を解説した動画も公開中です。

家具転対策ページは、『東京消防庁 家具転』で検索するか、右のQRコードでアクセスできます。

東京消防庁 家具転 検索



【東京消防庁】
家具転対策ページ